【別紙様式】

課題名：奄美に集う多様な新規就農者を生かした柑橘産地のアップデート

所 属 名：大島支庁農林水産部農政普及課
発表者名：松尾　至身

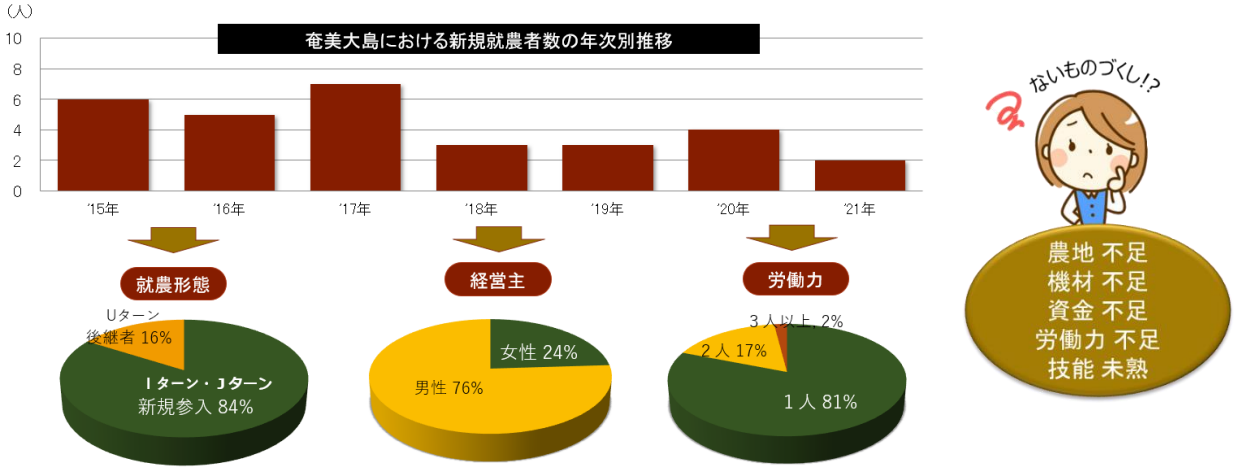
＜活動事例の要旨＞

奄美地域で就農を志す新規就農者に対して，あらゆる機会を通じて『柑橘の作式・管理をワンパッケージとした新提案』の理念・内容を具体的に示しながら，７年間にわたってその実践支援に取り組んできた。また，社会活動理念を大きく変えたコロナ禍においても，独自の情報伝達手段を模索して，〝学びを止めない〟新たな普及活動を展開した。

１　活動の課題・目標と策定過程

(1)課題・目標と設定理由

奄美地域では，市町が運営する就農支援施設の修了生を中心に年間５名程度の新規就農者が誕生しており，多くが研修品目でもあるパッションフルーツで就農するケースが多い。農地や施設等の資産や労働力，技術力に乏しい新規参入者（Ｉ・Ｊターン）が全体の８割を占めており，経営安定へのハードルが極めて高いのが実情である。個性豊かで多様な人材でもあるこうした新規就農者の定着・自立を促し，奄美大島の農業を支える次世代の担い手に育てていくことが地域の大きな命題となっている。



(2)計画の策定過程

大島地区普及事業協議会の枠組みで大まかな合意を得た後，具体的なスキームについては実務者レベルで組織する県園芸振興協議会大島支部果樹技術部会で策定し，常に協議・見直しを繰り返しながら検証し，進行管理に努めた。

２　普及指導活動の内容

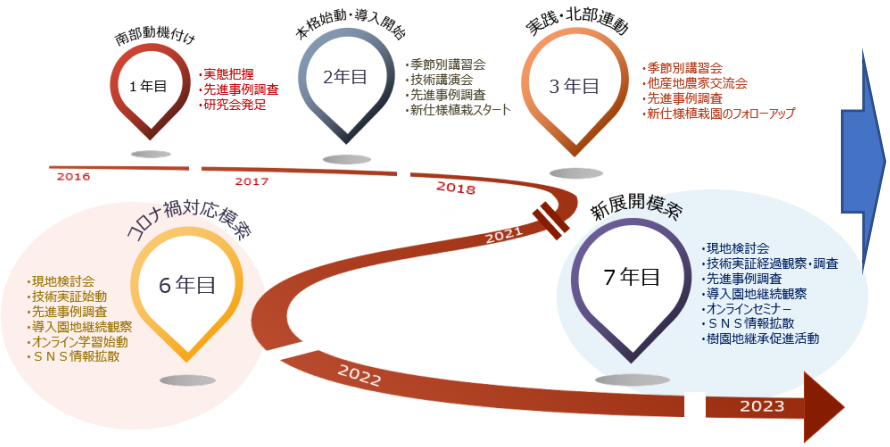
(1)活動の経過

【コロナ禍以前及び人流抑制緩和期間】

・新規就農者育成支援協議会の設置及び月例開催，大規模研修会の企画・開催
・新規就農者群を包含した『かんきつ研究会』の発足及び活動展開
・関連技術に特化した先進事例調査及び一流柑橘農家との相互交流の頻繁化
・ワンパッケージ技術体系に新規に取り組む新規就農者の重点フォローアップ

【コロナ禍の行動抑制期間】

・ソーシャルディスタンスを保った少人数での短時間現地検討会実施
・ＳＮＳプラットフォーム（Instagram・Facebook）での技術解説・情報拡散
・ミーティングアプリを用いたオンライン学習会による理解促進の補強



(2)指導・支援の体制

新規就農者確保・育成の個別事案については，新規就農者育成検討会等を通じて各市町と普及が連携しながら相談・対応にあたっている。また，栽培技術面については県園芸振興協議会大島支部果樹技術部会と大島地区指導農業士会及び普及指導協力委員が協調して，一体的に各種研修会や現地検討会等を企画・実施するなど，柑橘の低樹高計画密植栽培方式による早期成園化技術の実践・波及に努めてきた。

3　普及指導活動の成果

(1)課題及び目標の達成状況とその要因

【達成状況】

・柑橘（たんかん・津之輝）の低樹高計画密植栽培方式導入の拡がり（計 28 戸）
・早期多収事例の誕生（たんかん 5 年目単収 2.6ｔ，津之輝 3 年目単収 2.0ｔ）
・果樹経営支援対策事業での柑橘新・改植面積の激増（令３：10.3ｈａ＝全県一）
・新規就農者の高い定着率の達成（令和元年までの６年間：94.6%）

【要因】

・一流農家の斬新な思考・圧倒的な水準の園地に多くの農家が触れる機会の創出
・一連の取組メニューにおける意図・メッセージ性を込めた演出・工夫
・新規就農者に対する明確なエビデンスに基づく具体的展望の示唆
・常に材料を提供して風を吹かすことでの産地全体のモチベーション喚起
・関係者・農家間の意思疎通による信頼確保及び普及指導員の矜持・熱量

(2)活動に対する生産者・農家の評価

新規就農者にとどまらず，既存の大規模経営を行っている中核的農家の活動参加や実際の技術導入事例が増加しているという事実が，活動への求心力や技術への支持・期待というものを裏付けてくれていると思われる。

(3)地域農業振興への貢献

施設パッションフルーツ・たんかんで全国一，マンゴー・津之輝・スモモで県内一の生産量を誇る奄美大島の果樹産業の生産性をさらに高め，持続的に産地の発展を成し遂げる上で，本取組の与えるインパクトは絶大である。

4　今後の普及指導活動に向けて

(1)今後の課題

・奄美のたんかん・津之輝の強みをさらに引き出して高みに導く包括的な技術革新
・新規就農者の一層の経営安定に近づく樹園地継承システムの構築

(2)今後の活用に向けて

・既導入農家の進捗状況の追跡及び成果のアナウンス，技術のブラッシュアップ
・今後誕生していく次なる新規就農者への継続的提案・支援